

再発防止に向けしっかりと取り組んでまいります 東日本大震災後の設備健全性確認点検の記録不備について

女川原子力発電所では平成23年8月より、東北地方太平洋沖地震後の設備の健全性を確認する点検を行ってまいりました。この点検記録について、平成26年度第2回保安検査（平成26年9月1日～9月12日）の中で、記載の不備が確認され、平成26年10月29日、原子力規制委員会より保安規定違反（監視）の判定を受けました。これを受け、2号機の点検記録全数（約33,000機器、約82,000ページ）を再確認したところ、点検結果の記載に不備があるものが207件、点検結果の不適合管理に不備があるものが137件確認されました。また、記載の訂正の仕方が適切でなかったり、誤記、記載漏れ等、記録の品質の観点から改善が必要なものが3,844件確認されました。なお、予め計画された設備の点検は、記録の不備が確認されたものも含め全て実施しており、点検漏れの無いことを確認しております。

品質保証活動の仕組みを構築し、その中で工事記録の管理を含め、継続的な業務品質の改善に取り組む中で、点検記録の不備を多数発生させたことを重く受け止め深く反省し、地域の皆さまにご心配をお掛けしておりますことに、心からお詫び申し上げます。

記載誤りを誘発しやすい記録様式の改訂等の再発防止対策を既に講じておりますが、引き続き、品質保証活動のさらなる質的向上を目指し、組織的な背景要因も含めた詳細な原因分析を進め、再発防止に向けた実効的な体制・仕組みづくりの検討を鋭意進めてまいります。今後、女川1・3号機の点検記録の再確認も進めてまいります。

《原子力規制委員会による現地調査が実施されました》

1月23日、原子力規制委員会による女川原子力発電所の現地調査が行われました。女川2号機については、平成25年12月の新規制基準適合性審査申請以降、これまで審査会合が25回開催されています（1月末現在）。今回の現地調査も審査の一環として行われたもので、同委員会による現地調査は初めてとなります。

当日は、現在設置工事を進めている淡水貯水槽^{※1}や、海拔29mまでかさ上げ工事を行っている防潮堤のほか、フィルター付き格納容器ベント設備^{※2}の設置予定場所等を確認いただきました。

調査後、^{ふけた}更田原子力規制委員会委員長代理から「事業者の姿勢として、安全対策に十分な投資をしていこうという意欲がみられる。今後の審査において、有効な議論ができるのではと期待を持った」等の発言がありました。

※1 重大事故等の収束に必要な冷却水の確保のため、淡水を貯めておく地下式貯水槽（貯水量1万m³）

※2 原子炉格納容器の過圧破損を防止するために行うベントの際に、放射性物質の放出を抑制するフィルター設備



《「女川2号機の安全性に関する検討会」による視察が行われました》

1月16日、宮城県、女川町および石巻市が設置している「女川2号機の安全性に関する検討会」の委員の方々が当発電所を視察に訪れました。

当日は、かさ上げ工事が進む防潮堤のほか、実際の操作盤と同じシミュレーターを使った運転員による操作訓練の様子や、原子炉建屋内の耐震工事の状況等をご視察いただきました。

視察を終えた若林座長は「現場を見るということは非常に重要なこと。今回の現場視察を踏まえ、今後、いろいろ議論していけるのではないかと所感を述べられました。



《宮城県等が主催する原子力防災訓練に参加しました》

1月27日、宮城県等関係自治体*が主催する平成26年度原子力防災訓練が行われ、当発電所も参加しました。

今回の訓練では、宮城県沖を震源とする地震により、女川3号機から放射性物質が放出される事態になるとの想定のもと、関係自治体等への緊急時の通報連絡、放射線を測定するモニタリング要員の派遣訓練等を実施し、関係機関との連携、協力体制の確認を行いました。

また、この訓練の機会をとらえ、発電所独自に重機を使ったがれき撤去や電源車による電源確保等の訓練も実施しました。

※宮城県、女川町、石巻市、登米市、東松島市、涌谷町、美里町、南三陸町

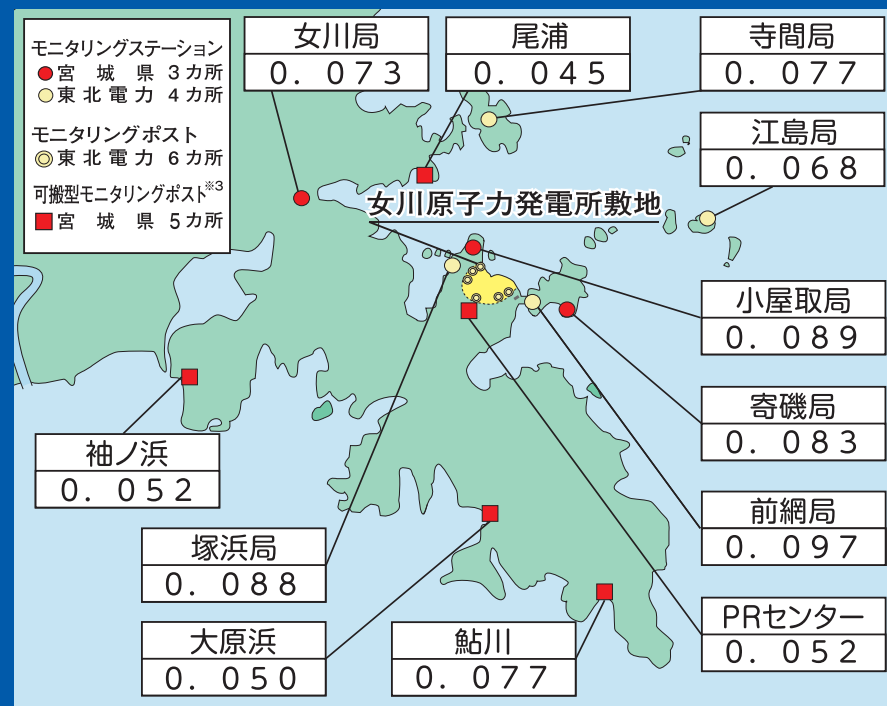


《女川原子力発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングポスト*1やモニタリングステーション*2で測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。

発電所敷地内に設置してあるモニタリングポストの現在の測定値は、最大で0.063マイクロシーベルト/時程度で安定しており、健康に影響を与えるレベルではありません。

モニタリングステーションの測定状況(1/31現在)



単位：マイクロシーベルト/時

- ※1 モニタリングポストは発電所敷地周辺の環境放射線を測定しています。女川原子力発電所の敷地境界には6基のモニタリングポストが設置されており、その最小値と最大値について、東北地方太平洋沖地震の発生日の値、それ以降で最大値が測定された日(平成23年3月13日)の値、1年後、2年後、至近3カ月の値を掲載しています。
- ※2 モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。
- ※3 宮城県では、震災により測定不能となっているモニタリングステーションの代替として、可搬型モニタリングポストによる測定を行っています。
- ※4 東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い測定されたもので、測定された時間は約10分間です。

モニタリングポストの最小値と最大値

平成23年	3月11日	0.027~0.064
	3月13日	1.8~21*4
平成24年	4月1日	0.063~0.098
平成25年	4月1日	0.055~0.076
平成26年	11月1日	0.043~0.068
	12月1日	0.044~0.078
平成27年	1月1日	0.043~0.082
	1月31日	0.043~0.063

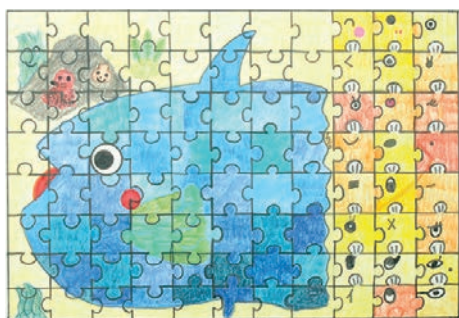
単位：マイクロシーベルト/時

女川原子力PRセンターからのお知らせ

《図画コンクールの作品展を開催しました》

1月17日から25日まで、石ノ森萬画館において、第13回東北電力図画コンクール「想像の海の生きものたち」の作品展を開催しました。

応募総数4,965点の中から一次審査を通過した200点の作品を展示し、来場された多くの皆さまに、子どもたちが一生懸命描いた想像力あふれる“海の生きものたち”をお楽しみいただきました。



第13回最優秀賞作品「パズルフィッシュ」
石巻小学校3年 阿部 咲来さん

